

---

# 海老グラタンの作法

並盛りライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

海老グラタンの作法

### 【Nコード】

N1083C

### 【作者名】

並盛りライス

### 【あらすじ】

三回目のデートは夜景の見えるレストラン。彼はそんなに器用じゃないし、きつと何もかも上手くいく気がする。けれど、それで良いの？と私自身に問いかける。

上手くいきすぎている。そう思った。

占いの順位は下降するばかりで。

三回目のデートは夜景の見えるレストラン。設定はマニュアル本そのままって感じだけど、分かりやすい分、期待してしまう。

彼は、そんなに器用じゃないし、中途半端な付き合いはしなないと  
思う。

私は、どう思ってるんだろうか。期待している。嫌いじゃない。  
でも結婚となると仕事は？家庭に入るって事？それだけじゃない、  
私は彼で良いのか？

ある意味、自由に生きてきた。好きなことは好きにやってきた。  
それを手放して、得る物って何だろ？

まだ、結婚って決まった訳じゃないけど、私達は上手くいく気がする。  
彼は私をふる理由なんてないし、私も彼をふる理由なんて今の所、  
思い付きもしないんだ。

そうやってダラダラしている内に、どちらからともなく

「結婚しようか」

って言い始める。

悪くない。悪くないんだけど、それで良いのか？

私の生きてきた、下らなくも、なんだか愛しい私の人生が、そんな  
順調にいつていいの？

「何見てんの？」

「ああ、コレさ有名なシェフがやってるっていうレストラン」

「ふーん、高いんじゃないの？」

「大丈夫。心配しなくていいから」

育ちの良さからくる余裕。それでいて嫌じゃない感じ。私はこの  
男を気に入っている。

「テーブルマナーとか私、苦手なんだよね」

「じゃあ、練習しとく？」

「そうだね、教えてよ」

「じゃあ、あそこなんてどう？」

「えっファミレス？ふふっ、いいねえ行ってみよっか？」

私達は、ファミレスに入った。なんだかゴチャゴチャして騒がしく、意味もなく笑いたくなった。

「俺達、こういう風にメシ食った事なかったよね」

「そっいえば、そうだね」

「将来、子供とかできてファミレスに来たら、昔こういう所でマナーの練習したんだ、って言うのかな」

悪くない。むしろ、そういう想像は嫌いじゃなかった。子供とか、そっいうのを重いと感ぜないでいられるのは素敵かもしれない。

「俺、和風ハンバーグ」

「私は、海老グラタンとサラダ」

料理が来るのを待っている間に、私達は少しだけ将来の事を話した。

結婚しても仕事を続けたい事、でも子供ができたら止めてもいいと思ってる事、家を買うためにお金を貯める事。

不明確で、何一つ順調じゃない未来もあるかもしれない。

「なんか、本番のデート忘れてない？」

「俺なんか、まだ告白すらしてないし」

「例えばの話。もしかしたら、この先にあるかもしれない話」

「もしも、明日で地球がおしまいになるとしたら？」

「私は、全財産で服を買う」

「好きな人と一緒に過ごす」

「じゃあ、荷物持ち決定ね、もしも、私を好きな人がもう一人現れたら？」

意地悪しすぎたかな。私は少し後悔した。けれど、

「俺の方が好きだって言って決闘を申し込む」

「決闘っ？」

それでも彼は真剣だった。

「そして勝つ」

絶妙なタイミングで、和風ハンバーグが運ばれてくる。

私は何も言わなかったけれど、彼は和風ハンバーグをナイフで切り分けた。

「なあ、海老グラタンの食い方って知ってる？」

「え？知らないよ」

「俺も」

私達は、仮定する。未来にもし不安で辛いでき事があったなら、それでも今日の事を後悔せずにいられるだろうか。

きっと後悔すると思う、なんである時、こういう選択をしたんだろう。そう思うだろう。

けれど、私はもう迷わなかった、そんな選択をするのは、初めてでもなかったし、ましてや最後でもないだろう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1083c/>

---

海老グラタンの作法

2010年12月13日18時07分発行